

療養型施設でのリハビリテーション

Rehabilitation services in long-term care facilities

わが国において、日常的な医療的管理を要する要介護高齢者の長期療養施設では、可能な限り居宅生活へ復帰することを目指してリハビリテーションが行われています。今後さらに入所対象者数の増加が見込まれ、その社会的重要性はますます高まっています。今回の特集では、「療養型施設でのリハビリテーション」というテーマで、現状と課題に続いて、さまざまなリハビリテーションサービスについて実践例を交えて解説していただきました。

現状と課題 石濱裕規氏ら…………… 1089

2017年5月に成立した改正介護保険法により、2018年度に介護保険を財源とする介護療養型医療施設が廃止され、介護医療院が創設されることになり、今後定められる介護医療院の機能訓練にかかわる人員配置基準や諸加算が注目される。療養型施設でのリハビリテーションの報酬体系や療法士配置、リハビリテーションの質の評価などについて概説した。

短期集中リハビリテーションと自立支援 大河内二郎氏…………… 1099

短期集中リハビリテーションは、介護老人保健施設入所後3か月だけでなく、通所リハビリテーションでも算定可能である。入所後に短期集中リハビリテーションを提供し在宅復帰した1例とともに、短期集中リハビリテーションの効果について、59施設から在宅復帰した115名をICF stagingによる機能測定を用いて検討した結果を紹介した。

生活行為向上マネジメントの医療療養病床における活用事例 渡邊 聡氏…………… 1103

生活行為向上マネジメントとはICFの視点から対象者・家族と合意形成した多職種協同プランを盛り込んだ日本独自の自立支援型マネジメントツールである。医療療養病床から居宅生活に至った事例を通して、「生活行為向上マネジメントシート」、「生活行為聞き取りシート」、「生活行為申し送り表」などのツールを用いた包括的支援の実践例を紹介した。

認知症短期集中リハビリテーション 谷川敦弘氏ら…………… 1111

認知症短期集中リハビリテーションは、介護老人保健施設において認知症を有する入所者および通所リハビリテーション利用者に対して提供される。徘徊や不穏により在宅生活が困難となって入所したアルツハイマー型認知症者への実践例を紹介した。介護者が互いの体験談を施設職員とも共有する場を定期的に設けることは介護者の負担感軽減につながる。

療養病床における維持期リハビリテーションの実践 嶋崎眞治氏ら…………… 1117

筆者らの医療療養病床では実施しているリハビリテーションを疾患別リハビリテーション料のうち脳血管疾患等と廃用症候群で算定しており、前者では算定上限日数内の患者は少なく、難病などの除外疾患の患者が多い。地域包括ケアシステムにより在宅支援の充実化・効率化が進んでいるため、長期入院患者に対しても在宅復帰の可能性を検討するべきである。

摂食嚥下リハビリテーション 菊谷 武氏…………… 1125

多職種が食事場面を観察評価するミールラウンドは、摂食嚥下障害だけでなく、食行動や食事介助における問題点の抽出に有用である。高齢者の摂食嚥下障害は低栄養に強く関与し、食形態の調整によっても摂取栄養量は低下することに留意する。療養型施設利用者には治療的アプローチよりも代償的アプローチや環境改善的アプローチのほうが効果的である。

書評	臨床データから読み解く理学療法学（評者：市橋則明）……………	1130
	運動機能障害の「なぜ？」がわかる評価戦略（評者：町田志樹）……………	1132
お知らせ	日本リハビリテーション連携科学学会・社会リハビリテーション研究会	
	平成 29 年度公開研修会—社会生活力支援の実態および実践……………	1145